

メーデー

JJ1SXA 池

毎年5月1日に行われる国際的な労働者の祭典であるメーデーは、1886年5月1日、米国で行われた8時間労働制要求のゼネストとデモが発端で、1989年の第二インターナショナル創立大会で決定し、1990年から挙行されています。

日本では1920年(大正9年)に第1回が行われ、1936年(昭和11年)以降禁止されたが、1946年に復活しています。

今回は、このメーデー(May Day)では無く、遭難呼出しのメーデー(Mayday)のことなどです、ちなみに「Mayday」は、フランス語の m'aider (=help me)の発音からできた言葉だそうです。

1992年2月より新しい救難システム GMDSS(Global Maritime Distress and Safety System)が運用開始されるようになり、1999年2月1日からは、完全にこのデジタル方式にとって変わられて、電信の SOS の出番が無くなっています、このことについては、以前「TWO-FORTY誌第70号番外編」に載せた「SOSは生きている」でも一寸書きましたが、GMDSS は、「海上における遭難及び安全に関する世界的な制度」ですから、船舶の救難通信としてはモールス信号の SOS は無くなったということで、SOS が完全に無くなったということではありません。

余談になりましたが、無線局運用規則第76条では、遭難呼出しは、無線電話により、次の各号の区別に従い、それぞれに掲げる事項を順次送信して行うものとする。

- 一 メーデー(又は「遭難」) 三回
- 二 こちらは 一回
- 三 遭難している船舶の船舶局(以下「遭難船舶局」という。)の呼出符号又は呼出名称 三回

となっています、また、同規則別表第4号「無線電話通信の略語」で、(略語)…遭難、MAYDAY 又はメーデー、(意義又は左欄の略語に相当する無線電信通信の略符号)…SOS という定めがあります。

船舶局だけではなく航空機も当然使います、先日(日本時間6月1日午後3時ごろ)レーダーから機影が消え、ブラジル海域で墜落したエールフランス機関係のニュースでも、何等かのトラブルで、メーデーが発信されなかったといった記事もありました。

前記の別表第4号無線電話通信の略語に、(略語)…非常、(意義又は左欄の略語に相当する無線電信通信の略符号)…OSO はあるのですが、別表第2号無線電信通信の略符号-2 その他の略符号-(1)国内通信及び国際通信に使用する略符号では、(略語)…SOS、(意義)…遭難信号はあるのですが、OSOという略語が見つかりません、どうなっているのでしょうか？皆さんに、1アマ受験を薦めた手前、少し法規のおさらいをしています、上級の試験には出題されるような内容では無いと思いますが…